

BIGINING ～園庭を作りなおそう！～

大型遊具の経年劣化により、園庭の見直しがスタート

大型遊具はよく遊んでいたものの、危険も伴うため『保育者が側で見守れない時は出来ない』など安全面や大人都合のルールも多かった園庭遊び。冬場の砂場が日陰でとても寒い中遊んでいたりと、三輪車をやりたい子と鬼ごっこをしたい子が混在しぶつかりそうになって危険だったり、と日々遊び方でどうしようかと悩んでいた部分がありました。今までも園庭環境を変えてきた経緯はあるものの、2023年に大型遊具の経年劣化を機にどのような園庭環境が子どもにとって良いのか一から園全体で見直すことにしました。

園内で「園庭プロジェクト係」を立ち上げ、話し合いに各クラスから代表者が参加します。まずはどのようなことに困っているか、どんな園庭にしたいかを持ち寄りしました。やりたいことがたくさん集まり、まずはテーマ決め！

「やりたい！が叶う場所」に決定し、そこから更に動き始めました。



↑ 以前あった大型遊具



↑ 冬場は日陰で寒い砂場



まずは砂場を日当たりの良い奥の場所へ移動し、小屋やデッキも増設。ごっこ遊びや砂遊びのスペースも広がり、様々な年齢がいても伸び伸びと遊べるようになりました。

築山も新たに作り、登る・下りるだけでなく、ボールを上から転がす、水を上から流すなど今まで見られなかった遊びも展開されていきます。新しい園庭では大人都合のルールはなくし、子どもたちがやりたいことを出来るだけ実現できるように園全体で実践していきたいと考えています。

安全面とやりたいことの両立に悩みながら園庭プロジェクトは進み始めました。



↑ 新しく作った砂場



↑ 新しく作った築山

PLANNING

プレイヤードをつくるまで



2023年から園庭の遊びの環境を見直し、遊具ではなく、自然素材や可塑性のある素材を使い、こどもたちが自ら遊びを創造できる環境、こどもたちが遊びを通じて他者や環境と対話できる環境づくりを目指して、砂場デッキと築山を作りました。



砂場と築山の改修により、砂や土を使って夢中に遊ぶ姿が日常的に見られるようになりました。その遊びをより発展させるためには、遊具ではなく、子どもたちの想像で様々に見立てることができる可塑性のある素材が必要だと考え、砂場デッキに使った木材の廃材や廃タイヤなどを揃えていきました。しかし、その素材遊びを「子どもたちの主体的な遊び」としていくには、「遊びの始まり」と「遊びの終わり」を自ら決定できることが重要と考え、廃材などの素材を管理・収納する素材置場をつくる計画がはじまりました。

素材置場としてだけでなく、子どもたちの遊び場としても機能するようにサイズ等も検討し、「子どもの遊びの基地」という意味を込めて「プレイヤード」と呼んでいます。



プレイヤード完成写真

EPISODE 01

プレイヤード 幼児クラスエピソード

1. 友だちといっしょに・・・。



廃材を手紙に、棚の隙間をポストの投函口に見立ててやり取りを楽しむ子どもたち。
投函口から板を落とすと下のコンテナに入るように場所も調節。自然と会話が弾みます。
その隣では「見て!!天井に手が届く」と嬉しそうな子どもたち。得意げです。



プレイヤードの棚の上は少しですが 音も遮断され閉鎖的な空間 になっています。

タイヤやコンテナを外に出すと友だちとじっくりと遊ぶのに最適な空間が出来ました。
様々な形の 廃材を自分で選んで見立てて 遊んだり、
タイヤを色々な物に見立てて友だちと一緒に遊んだり、
一人でのんびり過ごしたりする姿も見られます。
タイヤを重ねて中にすっぽり隠れてみたり、並べてベッドにしてみたり…

子どもたちの想像力も膨らんでいます。



EPISODE 02

プレイヤード 幼児クラスエピソード

2. SASUKE ごっこ



プレイヤードの入口上部に凹みがあり 掴む事ができることに気が付いた 子どもたち。正月にTVで観た“SASUKE”を再現できるのでは…？ とSASUKE ごっこが始まりました。背伸びをしても届かない高さの入口の凹みを掴むためにタイヤで足台を作り、凹みを掴むとそのまま横に移動しています。耐え切れずに落ちるとやり直していました。



プレイヤードと園庭を繋げて SASUKE のコースに少しでも近付けられるよう友だちと相談しながらコースを作っては挑戦していく子どもたち。以前は階段の下に収納されていたタイヤと廃材がすぐに出せる位置にあることで、出し入れも簡単になり遊びに取り入れる姿が多く見られるようになりました。コースをクリアすると、互いにたたえ合いながら、さらに難しいコース作りを考える姿が見られるようになりました。

EPISODE 03

プレイヤード 1・2歳児クラスエピソード

3. 新しい環境の楽しみ方



プレイヤードの素材棚に登って遊ぶ幼児の姿を見て、すぐに1・2歳児もトライしはじめました。幼児のように簡単には登れませんが、素材を入れているコンテナを足掛かりにしたり、協力しながら棚の上に登り、いつもと違う景色と環境を楽しんでいました。



幼児と同じように1・2歳児も廃材やコンテナなどの素材を使い、自分たちで考え、試行錯誤し、時には協力し合いながら、自分たちで遊びの環境を作り出し、遊んでいる様子が見られました。高さの違うコンテナを裏返して並べ、ステップ遊びをしたり、板切れを重ねたりしながら1列に並べてバランス遊びをしたりする姿から、素材や環境によってこどもの探索欲求が刺激され、遊びが発展し、豊かになる事を実感しました。

また、タイヤと板の廃材を使って、こんな揺れる遊具も自分たちで作っていました。

